

しまなみだより

第21号 2023年10月発行



秋涼の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へ移行したことにより、アフターコロナへの移行という新たな転換期を迎えています。ご子息ご息女が充実した学生生活を送ることができるよう教員一同取り組んでまいります。引き続き、保護者の皆様のご支援をいただけますようお願いいたします。

今号では、令和5年度前期の学生生活の様子をお知らせします。

(看護学科/看護学コース広報係)



やっさ祭りでは、乱舞隊として参加しました

就職1年目の卒業生が「カミングホーム」で大学に帰ってきました



同期生や教員との交流会



在学生へのキャリアアドバイスの様子



在学生へのキャリアアドバイスの様子

就職1年目の卒業生が、大学に戻り、教員や同期生、後輩との交流を通して、やる気と自信を得ることを目的に「カミングホーム」を開催しました。今年度は、17名の卒業生（看護師、保健師）と3名の助産専攻科に進学した学生が帰ってきました。同期生や教員との交流会では、卒業生から「先生や友達とたくさん話すことができ楽しかった」「同級生のみんなが頑張っていることを聞いて、頑張ろうと思えた。学生の頃を振り返り、自分が頑張ってきたことに自信を持って社会人を頑張っていこうと思った。久しぶりに三原に帰ることができてリフレッシュできた」といった声が聞かれました。卒業生が、これからも仲間や大学とつながりを持ちながら看護職として成長していくことを期待しています。

また、卒業生には3年生や4年生へのキャリアアドバイスをお願いしました。参加した3年生からは「先輩方がどのように就職先を選んだか、いつ頃から見学やインターンに参加していたのかを知ることができたので良かったです。とても充実した時間でした」、4年生からは「実際に看護師として働き始めた先輩方の話を聴いて来年からのイメージができました」との声が聞かれました。在校生も自分の将来に向けて充実した時間を持つ事ができていました。

(岡田ゆみ, 川野綾)

新入生オリエンテーションセミナーが開催されました

令和5年4月29日(土曜日・祝日)に、雨模様でしたが新入生オリエンテーションセミナーが開催されました。保健福祉学科各コースの新入生と、2年生の学生自治会、教職員が参加しました。

午前中は三原警察署による防犯講習と薬物乱用講習を受け、その後、学生自治会によるドッジボールや〇×クイズ、ジェスチャーゲームなどのレクリエーションを行い、盛り上がりました。午後からは、授業内外において本学学生への学修支援を行う学修支援アドバイザーと教員で企画したコース別交流会を行いました。第1部は学内謎解きオリエンティングを行い、本気で謎を解き学内を散策しました。第2部では小グループに分かれて座談会を行い、先輩に大学生活での疑問を相談し、興味深々で先輩の話聞いていました。短い時間でしたが、新入生同士で交流したり、先輩や教員と交流する機会を得ることができました。ここで出会った仲間と共に支え合いながら、4年間が充実した学生生活となることを願っています。(川野綾, 加藤裕子)



全員での集合写真



学内謎解きオリエンティングの様子

1～4年生の授業紹介

1年生 大学基礎セミナーⅠ

大学基礎セミナーⅠは、1年次の1クォーターに開講されている科目で、大学生活における基礎知識や、レポートの書き方、資料の探し方など、大学生としての学修方法を修得することを目標としています。全コースから数名ずつ、1グループあたり14～15名の小グループとなって一緒に学修するため、他コースの学生と交流することができます。講義の最終日にはこれまで学修してきたことを活用し、「SNSによる誹謗中傷」や「推し活でストレス解消」といった各自の関心ごとからテーマを考え、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行いました。テーマの選択理由を質問したり、発表を聞いた感想をお互いに述べることで、積極的な意見交換もすることができました。「テーマを決定する、情報を収集する、構成を考える、発表を行う」ことはこれからの学生生活で必要となるスキルなので、今後も活用してもらいたいです。



講義の様子(各自のノートパソコンで記録をまとめています)

(澤岡美咲)

2年生 在宅看護論

この科目では、在宅看護が必要とされる社会的な背景を理解し、在宅看護の対象や、活動の場、活動方法の特徴について学びます。講義形式の授業のほかに、グループディスカッションを行い、対話形式のアクティブラーニングを行いました。学生は、既習の知識やこれまでの経験を踏まえ、対象理解や訪問看護師として対象

教科書①p.211

療養所介護の概要

○ 主に、難病等の重症要介護者やがん末期の者であって、サービス提供に当たり看護師による観察が必要な利用者を対象とする地域密着型サービス。
 ○ 入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話や機能訓練を行うことで、利用者の社会的孤立感の解消や心身の機能の維持、利用者の家族の身体的・精神的負担の軽減を図る。

自宅

訪問看護、認知症、臨海型療養所等

通い

療養所介護事業所(定員18名以下)

●利用者の社会的孤立感の軽減
 ●心身の機能の維持
 ●利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減

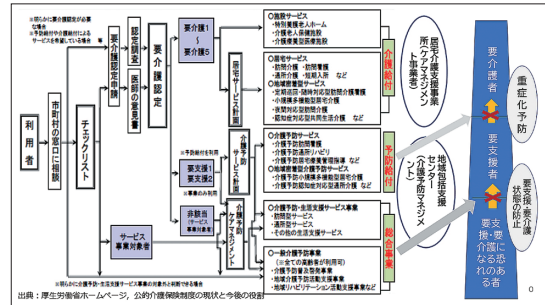
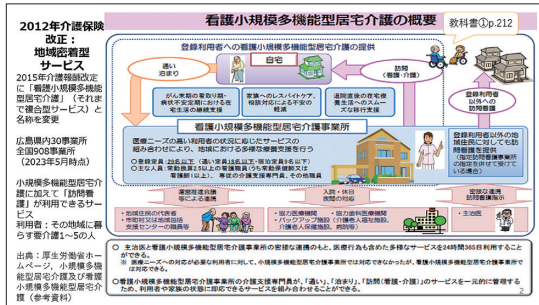
2006年創設
 訪問看護ステーションに併設した形で運営されている事業所が多い
 広島県内2事業所(RS)・全国89事業所(H31)
 出典：厚生労働省「介護給付費分科会(資料2)」令和5年7月
<https://www.mhlw.go.jp/content/11130000/00069865.pdf>

機能訓練
 ●利用者の身体的及び精神的負担の軽減
 ●必要日常生活上の世話

相談援助等の生活支援

や家族に関わる意義について話し合い、学びを深めていくことができました。また、在宅看護では、地域のフォーマル・インフォーマルなサービスについて理解し、在宅療養者の望む療養が継続できるよう支援することが重要になります。そのため、地域の特徴的な社会資源についても学修していきました。後期の「在宅看護展開論」では、この授業の学修を活かして、在宅看護での看護過程について学び、在宅看護に必要な知識や技術について学びを深めていきます。

(加利川真理)



3年生 急性期看護実践論



この授業は、①手術を受ける成人期の事例展開、②シミュレーション演習、③急性期看護に必要な看護技術演習、により急性期および周術期にある患者・家族への看護援助について学修します。①事例展開では、教育用電子カルテから患者情報を収集し、TBL（チーム基盤型学習）やグループディスカッションなどを通してアセスメントに基づく援助方法を実践的に学修します。また、②シミュレーション演習では、輸血によるアレルギー反応を起こして急変した入院患者への看護について、緊急度・重症度を踏まえて実践的に学修します。③看護技術演習では、術後患者の回復過程を支援する上で必要な基本的スキル（寝衣交換・医療機器の取り扱い・吸引・早期離床）について、患者の安全・安心を考慮した方法を学修します。学生たちは、学修課題に真摯に取り組み、3年次3クォーターから始まる急性期看護実習に向けて準備を進めています。

(中垣和子)

4年生 精神看護実習

精神看護実習は、医療法人仁康会 小泉病院で3週間の実習を行いました。病棟実習では患者との関わりを通して、精神疾患を抱える患者の個性に応じた看護やコミュニケーション技術を学びました。また、隔離拘束や包括的暴力防止プログラム（CVPPP）を体験し、行動制限の必要な患者への看護や倫理について考えました。その他にも、精神科デイケアおよび就労継続支援事業所での体験実習、精神科訪問看護の同行など多様な場での実習を行い、実習指導者より「身体・精神（心）・社会的な側面など総合的に考えることができる看護師になってください。」など、多くの助言を頂きました。実習を通して学生は精神疾患や精神医療の印象が変化したようでした。

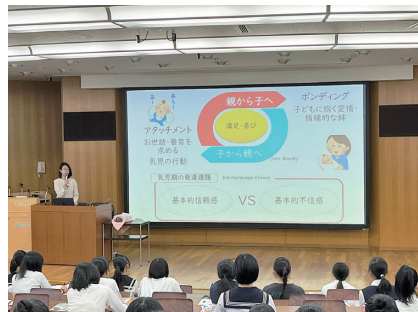
(井上誠，麻生浩司)



オープンキャンパス

■ 模擬講義 「新生児の不思議～新生児が命の始まり時に持つ能力～」

令和5年8月10日のオープンキャンパス2023にて、模擬講義を実施しました。台風接近の中、当日まで開催できるか危ぶまれましたが、無事に開催でき、多くの高校生の皆さんに来場していただきました。今回の母性看護の模擬講義のテーマは、「新生児の不思議～新生児が命の始まり時に持つ能力～」とし、新生児の持つ能力は何をもたらすのか、について講義しました。具体的な内容は、新生児の定義や、出生時の呼吸・循環における変化、新生児のもつ能力、そのほか母子相互作用やアタッチメントやボンディング、沐浴などについてです。新生児の能力に関するクイズでは、模擬授業に参加した高校生の皆さんは、「うーん」と悩みながらも一生懸命考え、また、最後まで真剣に聴講してくれました。このたびの模擬講義で高校生の皆さんが、母性看護学や看護に興味を持つ機会になれば大変嬉しく思います。
(上野陽子)



■ 在学生8名が学生生活に関するプレゼンをしました

オープンキャンパスでは、在学生8名が授業・実習、サークル活動の様子などの学生生活に関するプレゼンをしました。教室を埋める来場者の多さに緊張しましたが、来場者に語りかけるように言葉を選びながら、本コースの良さ、授業や課外活動の様子など、体験をもとに丁寧に発表しました。また、「看護学は患者さんの辛さに寄り添う仕事につながる学問です。県大で一緒に学びましょう」と呼びかけました。来場者の感想では「よく分かりました!」という声が多く、充実した学生生活が伝わった様子でした。終了後も来場者の質問に対応する頼もしい姿がありました。
(鴨下加代)



県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

教員紹介



母性看護学 准教授 上野 陽子

母性看護学では、母性看護の基盤となる概念や、支援するための基礎的な看護技術や知識を学び、妊娠・出産・育児に対する発達課題に、母子とその家族が順調に経過し適応できているかの視点をもって支援する方法を学修します。周産期における看護では、対象者や家族の強みを引き出しながら親になることを支えることが必要です。学生には女性や家族に寄り添いながら健康を支える母性看護の役割を探求しながら学んでほしいと考えています。



成人看護学 講師 木場しのぶ

本年度4月に着任し、成人看護学を担当しています。この度ご縁があり、母校に教員として戻ってることが出来、大変嬉しく思っています。本学で積み上げてこられた教育実践にじかにふれさせていただき、日々勉強させていただいています。人と話すことが好きなので、気軽に声をかけていただき、皆様との交流が深められたらいいと思います。そして、一生懸命学び、日々成長していく学生のみなさんと共に、これからも頑張っていこうと思います。



成人看護学 助教 山田 裕紀

成人看護学の急性期分野を専門にしています。突然の受傷や発症により生命の危機的状況にある、あるいは手術による過大侵襲を受ける患者とその家族に対する看護を、十数年臨床現場で培ってきた実践知を含めながら、講義や演習、実習を通して分かりやすく伝えていきたいと思っています。臨床現場で活躍し続けられるよう、そして地域に貢献していけるよう、4年間の学修を支えていきます。

〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
TEL 0848-60-1120 (代表) FAX 0848-60-1134 (代表)
✉ nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
URL <https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/nursing/>



看護学科/看護学コース「学生生活通信」についてご意見、ご感想などお寄せ下さい。

発行：県立広島大学保健福祉学部看護学科／保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 広報係

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima